

【分科会報告】

- ①コーディネーター名 南條成子
- ②参加者数 10名（宮城5名・山形4名・福島1名）
- ③テーマ 「組織で生きる、個人を生きる
ーワーク・ライフ・バランス」

④ディスカッション内容

1986年に男女雇用機会均等法が施行されてから30年経ちますが、いまだ平等とはいえない状況の中でどのように仕事と生活のバランスをとったらよいかを話し合い、次のような意見が出ました。

- ・社内制度が整った企業では、どんどん制度を利用していくこと。同僚にかける負担にはありがたいの気持ちと言葉を忘れない。子育て期間は短いので割り切る。
- ・上司として、出産子育て中の女性に配慮した勤務シフトを組んできたが、逆に不満が出ることもある。各人の状況や気持ちは様々なので、よく希望を聞いて対処するとよい。
- ・ワークライフバランスは職種により立場により十人十色。それぞれの場で他の人との共存を個人的に考えて対処していくことが大切。
- ・仕事が忙しくても休日に友人と遊びに出かけると逆に疲れない。
- ・結婚したからといって仕事を抑えたくない。夫とよく話し合い、うまくバランスをとっていきたい。
- ・制度が不備な時代で忙しい職種だったため、子どもが生まれるときにやむなく退社。その後は独立して仕事をしてきた。状況に合わせて道を切り開くよう子どもに話している。
- ・「男の職場」で夫の後を継いで経営してきたため苦勞した。しかし自分の人生設計に沿って現在は趣味も楽しみつつ仕事をしている。
- ・家庭では夫に家事を分担してもらうため、褒めて辛抱強く指導する。